

京都造形芸術大学  
舞台芸術研究センター企画公演  
(企画・監修 渡邊守章)

# 春秋座

## 能と狂言

狂言 昆布壳

プレトーク 「松風」という能 出演 松岡心平(能楽研究、東京大学大学院教授)

渡邊守章(京都造形芸術大学舞台芸術研究センター所長)

ツレ 村雨 梅若 晋矢

シテ 松風 観世鍊之丞

狂言 松風

ワキ 旅僧 殿田 謙吉

大鼓 亀井 広忠  
小鼓 大倉源次郎  
笛 藤田六郎 兵衛

狂言 昆布壳

シテ 大名 茂山七五三 アド 昆布壳 丸石やすし

ツレ 村雨 梅若 晋矢

シテ 松風 観世鍊之丞

狂言 松風

ワキ 旅僧 殿田 謙吉

大鼓 亀井 広忠  
小鼓 大倉源次郎  
笛 藤田六郎 兵衛

撮影 吉越 研(2点とも)

後見 柴田 稔  
清水 寛二  
味方 味方 團 青木 道喜  
吉浪 寿晃 片山 清司  
橋本 雅夫



京都芸術劇場 春秋座  
[京都造形芸術大学内]

2009年11月28日[土]

14:00開場 14:30開演

※本公司の前に14時30分よりプレトークを行います

□チケット発売開始日

2009年9月17日(木)

友の会先行発売日 2009年9月15日(火)

□入場料(全席指定席・前売料金)

S席 4,500円 京都芸術劇場友の会 3,500円 シニア(60歳以上) 4,000円

A席 3,000円

B席 2,000円

学生&ユース席(25歳以下) 2,000円 瓜生山学園生席 1,000円

※当日は各500円増

※シニア、学生&ユースは要証明書提示

※学生&ユース席、瓜生山学園生席は座席限定・範囲指定有り

□お申込

●京都芸術劇場チケットセンター

TEL 075-791-8240 (平日10時~17時)

●劇場オンラインチケットストア

パソコンから <http://www.k-pac.org/>

携帯から <http://www.k-pac.org/theatre/m/m>

※要事前登録(無料)

□主催・お問い合わせ

京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター

〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116

Tel 075-791-9437 Fax 075-791-9438

URL <http://www.k-pac.org/> e-mail: [info@k-pac.org](mailto:info@k-pac.org)



# 春秋座 能と狂言

企画・監修——渡邊守章(京都造形芸術大学舞台芸術研究センター所長)  
 照明プラン——服部基(あかり組) 照明オペレーター——林悟  
 舞台監督——小坂部恵次 制作協力——鍛仙会、空中庭園

2009年11月28日[土]  
 14:00開場 14:30開演

京都芸術劇場 春秋座 [京都造形芸術大学内]  
 〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116



※叡山電車茶山駅から  
 東北大路通 地下鉄東西線 三条通  
 白川通 上終町  
 駅前 御藤通 今出川通  
 東鞍馬口通 上終町  
 茶山駅 京都造形芸術大学  
 丸太町通 丸太町駅  
 河原町通 京阪電車  
 鳥丸通 丸太町通  
 北大路通 丸太町駅  
 地下鉄烏丸線  
 丸太町駅  
 北大路駅  
 至京都駅  
 N

◎JR・近鉄京都駅、京阪三条駅、阪急河原町駅から  
 京都市バス5番「岩倉」行き乗車、  
 「上終町・京都造形芸大前」下車  
 (京都駅から約50分、三条駅・河原町駅から約30分)

◎京都市営地下鉄丸太町駅・北大路駅から  
 京都市バス204循環に乗車、  
 「上終町・京都造形芸大前」下車(約15分)

◎京阪電車出町柳駅から  
 叡山電車に乗り換え、茶山駅下車 徒歩約10分

※駐車場はございませんので、お車・バイクでの  
 ご来場はお断りします。

能『松風』は、現在上演される能のなかでも、詞章、節付け、仕草、舞事、そして全体の演出と、全ての要素が優れていて、まさに『松風』を見ずに能のことは語れないと同時に、『松風』によって能の虜となつた人も多いはずです。

として、歌に読まるのですが、更にその灰を、海水を満たし、た大釜で煮詰めて、塩を取るという、塩田法以前の技法であり、伝統詩歌の好んで歌う風景となっていました。

能『松風』は、現在上演される能のなかでも、詞章、節付け、仕草、舞事、そして全体の演出と、全ての要素が優れていて、まさに『松風』を見ずに能のことは語れないと同時に、『松風』によって能の虜となつた人も多いはずです。

物語は、むかし須磨の浦に流罪になっていた在原行平に愛された、須磨の浦の『汐汲みの海女』の姉妹である松風・村雨の悲恋。行平は、都に赦されて帰る際に、必ず戻つてくるからと約束して、自分の鳥帽子・狩衣を形見にと置いて去つた。しかし、行平は戻らず、二人の海女は、男を想いつ死んでしまう……

『松風』という能は、そうした「風流な景色」を、先ずは主題として始ります。世阿弥の伝書などから、原作は、世阿弥たちの猿楽と同時代の芸能で、猿楽より早く都市型芸能として美的洗練を経験していた田樂の演目であり、『作曲の名手』として知られていた喜阿弥(亀阿弥)の作であつたものに、世阿弥の父の觀阿弥が、恐らく「愛する人の衣裳を身につけることで、その人が乗り移る」という、『衣裳による憑依』という呪術的であり劇的でもある仕掛けを導入し、更に世阿弥が、前段の「浦尽くし」の名曲を挿入し、全体を『夢幻能』として完成させたのだろうと推測することが可能なのです。

『源氏物語』における源氏の須磨流罪が、そもそも行平流罪を『本説』にしていたのですが、白砂青松の美しい須磨の浦、しかも物寂しい秋の満月の夜を舞台に、そこで『汐汲み』をする二人の若く美しい海女を登場させ、古来、風情のある景色の典型的に数えられていた『汐汲み』の所作を見せる。古代の製塩法として、海草に海水を掛け、それを干し、十分に塩を含んだところでそれを焼き——その時に立つ煙の白さが『藻塩焼く』煙

渡邊守章(わたなべ・もりあき)  
 東京大学教授、放送大学副学長を経て東京大学名誉教授、京都造形芸術大学教授、舞台芸術研究センター所長。専攻は仏文学・表象文化論。演出家。著書に「ボール・クローデル」劇的想像力の世界、「舞台芸術の現在」等。訳書に「ラシード・フエードル アンドロマック」「フーコー」「性の歴史I—知への意志」「クロードル『繩子の靴』」(上・下、毎日出版文化賞・小西財団日本翻訳文学賞受賞)、「パルト・ラシードル論」(読売文学賞受賞)等。演出作品に、ラシード・フエードル「芸術祭優秀作品賞」、ジユネ「女たち」(読売演劇賞)、能ジャンクション「葵上」「當麻」、創作能「内濠十二景」、あるいは『二重の影』、『薔薇の名』、『長谷寺の牡丹』等。

東京大学大学院総合文化研究科表象文化論専攻教授。能楽研究家。世阿弥・金春禪竹、および日本の中世芸能・中世文学、日本の芸能や文学への身体論的アプローチによる研究を専門とする。主な著書に『宴の身体——バラカラ世阿弥』(岩波書店)、『能——中世からの響き』(角川書店)、「中世を創った人びと」(新書館)、「中世芸能を読む」(岩波書店)、「世阿弥を語れば」(岩波書店)等。

松岡心平(まつおか・しんへい)

東京大学大学院総合文化研究科表象文化論専攻教授。能楽研究家。世阿弥・金春禪竹、および日本の中世芸能・中世文学、日本の芸能や文学への身体論的アプローチによる研究を専門とする。主な著書に『宴の身体——バラカラ世阿弥』(岩波書店)、『能——中世からの響き』(角川書店)、「中世を創った人びと」(新書館)、「中世芸能を読む」(岩波書店)、「世阿